

第 1 回評価委員会（令和 7 年 6 月 16 日）における委員からの意見と対応

項番	分類	意見の概要	意見を踏まえた対応
1	全体	骨格としては網羅されていると思うが、他の独法と比較したときに、神奈川発のフロントランナーというところを分かりやすく示した方がよい。	中期目標の前文に反映した。
2		神奈川県知的事障害の人たちがよくなるだけでなく、それを見習って全国の人たちがそうなることを目標に設定してもらいたい。	
3	各論	これから研究機能を持つ中で、利用者満足度調査の指標や方法を構築した方がよい。	中期目標の「第 3 業務運営の改善及び効率化に関する事項」の「3 その他 PDCA サイクルによる継続的な改善」に反映した。
4		職員が満足して生き生きと働いていれば、入所者にどう接しているかも想像がつくので、職員満足度調査をやってもらいたい。	
5		職員の動機や気持ちなどの研究もした方がよい。	
6		知的障害があるから診察できないという時代ではないようにしなければならない。	中期目標の「第 2 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項」の「1 当事者目線による地域生活支援の実践」に反映した。
7		研究と実践の連動をしっかりと評価できるよう、科学的な評価指標を立ててもらいたい。	
8		権利の勉強会をやった方がよい。	現在の中井やまゆり園の取組や法人の制度設計の中で検討していく。
9		倫理委員会を組織し、職員にも周知した方がよい。	
10		現場の裁量で自由に使えるお金や仕組みがあった方がよい。	
11		収支の根拠を対外的に説明できるように整理した方がよい。	収支の根拠が分かるように整理し、県議会等に説明していく。